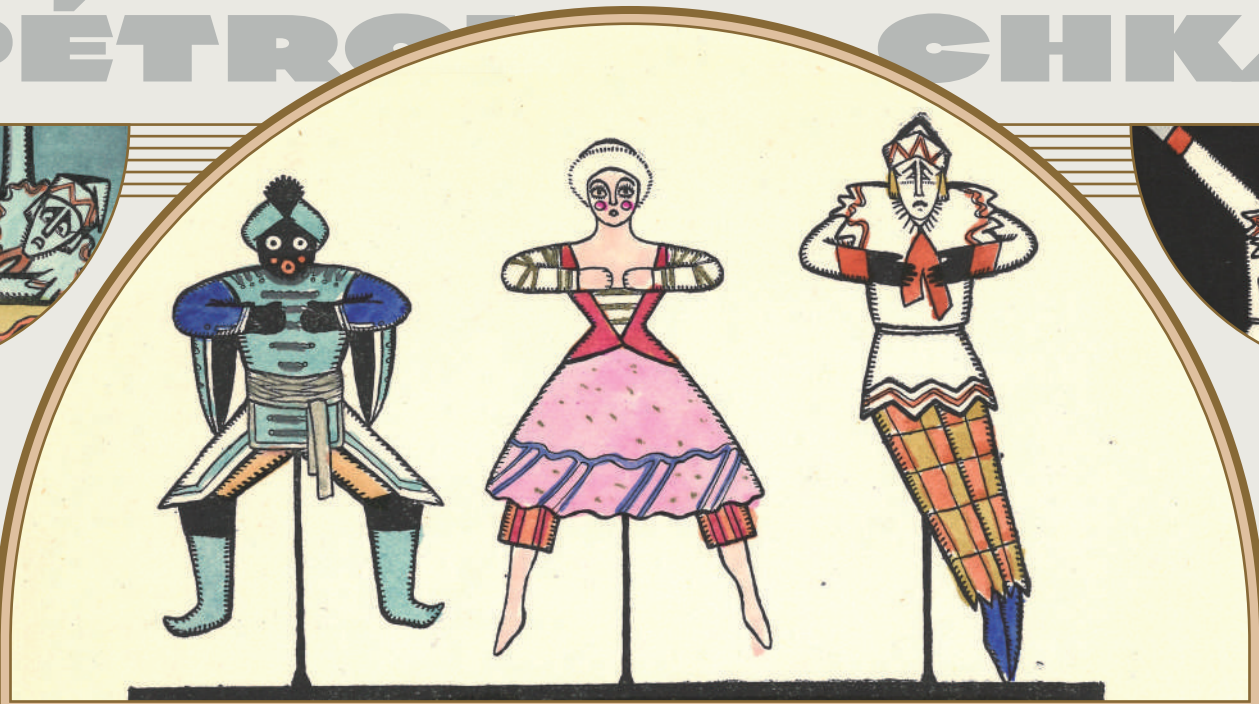


バレエ・リュス作品の再創造 『ペトルーシユカ』

PÉTROUSCHKA



世界は皆からくり人形——100年前の、人形をめぐる二つの物語。

中之島に触を放つⅢ——大学博物館と共創するアート人材育成プログラム
(アートとその分身) 人間／人形の境界を超えて

人間を脱出したモノたちへ



EL RETABLO DE MAESE PEDRO

浄瑠璃人形を用いたファリヤのオペラ 『ペドロ親方の人形芝居』

【企画】伊東信宏(大阪大学中之島芸術センター長・大阪大学大学院人文学研究科教授)
古後奈緒子(大阪大学大学院人文学研究科准教授)

【主催】大阪大学中之島芸術センター・大阪大学大学院人文学研究科・大阪大学総合学術博物館

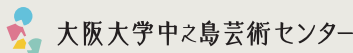
2025年2月14日(金)19:00、15日(土)14:00

各回終演後、アフタートークあり

ピッコロシアター中ホール

入場無料・要申込

令和6年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」



大阪大学「中之島に鮠を放つⅢ—大学博物館と共創するアート人材育成プログラム」で生まれた、人形にまつわる2つの名作の再創造プロジェクト。人形は、人間が生み出した理想形として、また創意工夫の詰まった道具として私たちが魅了し翻弄してきました。ヨーロッパで誕生した人形にまつわる2つの作品を2人のアーティストを中心に再創造します。3年をかけてクリエイションに参加したプログラム受講生の力演・スタッフワークもお楽しみに。



バレエ・リュス作品の再創造 『ペトルーシュカ』

『ペトルーシュカ』は、1911年に初演された人形たちのバレエです。私は近年、コンテンポラリーダンサーかつキュレーター（時に「踊るキュレーター」とも称されます）として、歴史的作品の再創造に取り組んでいます。それは写真・絵画・文献などの「動かない」ものを「動かす」営為であり、過去を「蘇らせたい」という願望に基づいています。『ペトルーシュカ』の人形は、歴史的資料と現代のダンサー、音楽家の交わりによって、どのように命を吹き込まれ、動き出すのか……『牧神とニンフの午後』『パレード』に続く、バレエ・リュス作品の再創造の3作目。満を持しての挑戦です。（関典子）

振付・出演：関典子 / 演奏：三浦栄里子（ピアノ）
原曲：イーゴリ・ストラヴィンスキー、佐藤一紀
アドバイザー：ほんまなほ（大阪大学COデザインセンター教授）

関典子（せきのりこ）

神戸大学准教授 / 薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター。
幼少より宝塚市にてバレエを学び、お茶の水女子大学入学後、コンテンポラリーダンスに転向。主著『Butoh入門：肉体を翻訳する』（大野口ベルト・相原朋枝編 / 文学通信 / 2021年）「第6章 舞踏とコンテンポラリーダンス：和栗由紀夫との協働を超えて」。日本ダンス評論賞（2001年・2004年）、兵庫県芸術奨励賞（2008年）、神戸市文化奨励賞（2011年）、お茶の水女子大学賞小泉郁子賞（2024年）。



浄瑠璃人形を用いたファリャのオペラ 『ペドロ親方の人形芝居』

『ペドロ親方の人形芝居』は、スペインの作曲家ファリャが、『ドン・キホーテ』のなかの一場面をほぼそのまま台本として、人形劇のためのオペラとして仕立てた作品です。とても上質な作品なのに、調子ハズレのラッパが響き渡る音楽。今回、この作品を浄瑠璃人形を使って上演したい、という無謀な夢を抱き、マイム界のライジングスター、いいむろなおきさんをはじめとする各分野の皆さんのご助力を得て、この夢が実現することになりました。「ドン・キホーテ」と「浄瑠璃人形」の世界は明らかにチグハグですが、実は同じ17世紀の大衆文化に立脚しており、そもそも夢と現実のチグハグがテーマのこのオペラをうまく浮上させてくれると信じています。どうか皆さま、ドン・キホーテと一緒に、夢/現実、人形/人間、西欧/極東を取り違え、そして楽しんでいただけますように。（伊東信宏）

ドン・キホーテ：西尾岳史（バリトン） / ペドロ親方：加藤ヒロユキ（テノール）
少年：加藤理子（ソプラノ）

いいむろなおきマイムカンパニー

いいむろなおき、田中啓介、谷啓吾、羽田兎桃、川島由衣、さゆ〜る

室内楽演奏：

丸山和範（ピアノ）、飯森理信（クラリネット/オーボエ）、
早坂宏明（トランペット）、大田智美（アコーディオン）、畑中明香（打楽器）

出演：大阪大学「中之島に鮠を放つⅢ」受講生

石井靖彦、伊藤尚、小野毅、喜多村雅代、津村長利、板東静、大石淳、中村栄一、
西村奈津希、松田栄子、中原寛美、小林千晃

演出：いいむろなおき

作曲：マヌエル・デ・ファリャ / 編曲：丸山和範

舞台美術・衣装：田中秀彦（成安造形大学准教授） / 発音・歌唱指導：服部洋一
コレペティトゥア：三ツ石潤司 / 字幕：内藤多寿子

協力：浄るリシアター、能勢人形浄瑠璃鹿角座、兵庫県立尼崎青少年創造劇場

いいむろなおき

マイム俳優 / 演出家 / 振付家

バリ・マルセル・マルソー国際マイム学院
卒業。ニデルメイエ国立音楽院コンテンポラリーダンス科最上級クラス首席卒業。

「いいむろなおきマイムカンパニー」主宰。

関西を拠点に国内外で舞台出演、マイム指導・演出等幅広く活動中。2005年文化庁新進芸術家海外留学制度研修員。2009年「第3回世界デルフィックゲーム大会」即興マイム部門金メダリスト。2021年東京2020パラリンピック開会式出演。



2025年
2月14日(金) 19:00、15日(土) 14:00

兵庫県立尼崎青少年創造劇場
ピッコロシアター 中ホール

入場無料・要申込 (peatix)

チケット申込・お問合せ

大阪大学中之島芸術センター事務局

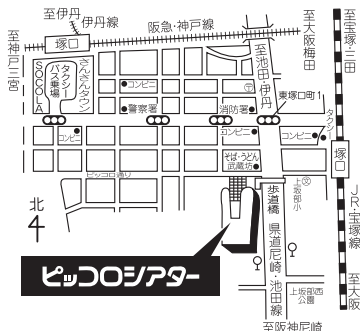
URL : <https://www.art.osaka-u.ac.jp/news/3963.html>
e-mail : secretary.art@ml.office.osaka-u.ac.jp



兵庫県立尼崎青少年創造劇場
ピッコロシアター

〒661-0012
兵庫県尼崎市南塚口町 3-17-8

- 阪急神戸線「塚口」駅下車
南出口より、南東徒歩約8分
- JR宝塚線「塚口」駅下車
西出口より、西へ徒歩約5分
- 阪急バス「ピッコロシアター」停留所下車すぐ
- 阪神バス「ピッコロシアター」停留所下車すぐ



図版提供：兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション
『ペトルーシュカ』書籍 / シリル・ボーム著 / 1919年
『ドン・キホーテ』台本 / ポリショイ劇場 / 1969年

照明：追上真弓（株式会社カメラリ）

舞台監督：北村侑也（匿名劇場）

制作：和田大資（公益財団法人箕面市メイプル文化財団）、大阪大学中之島芸術センター事務局
票券：北沢理美

チラシデザイン：とりやまゆり

主催：大阪大学中之島芸術センター・大阪大学大学院人文学研究科・大阪大学総合学術博物館
協力：福島尚子、兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレエ・コレクション

連携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール、浄るリシアター、
公益財団法人 吹田市文化振興事業団（メイシアター）、豊中市都市活力部
魅力文化創造課、兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター）、
公益財団法人 箕面市メイプル文化財団